

八戸市における水産加工業について

小 泉 郁 子

1 はじめに

水産加工業とは、水産物を処理し一般加工品・かんづめ・油脂・飼肥料を製造する企業をさす。

ここでは特に青森県のうちでも水産業の盛んな八戸市にその例をとり、"水産と工業の町"と言われる当地域で、水産加工業がいかに重要な位置を占めるかということを確認するとともに、工場の分布・規模・業種体系により、八戸の水産加工業地区を区分し、その特色を調べようとするものである。

調査方法としては、各種資料の収集・聞きとり・アンケート集計などを用いた。

Ⅱ 八戸市の水産業

昭和50年度の全国主要漁港の水揚げ状況を数量と金額の面からみると、八戸市の場合、数量では56万2千トンで全国第2位、金額では483億円で全国第4位である。金額面で数量の順位よりおとるのは、三陸沖という同じ漁場をもつ石巻・塩釜と同様、魚種がサベ・イワシ・サンマなどのないいわゆる大衆魚だからである。

次に青森県における八戸港の位置をみると、昭和50年度の青森県の総漁獲数量は約66万6千トンであるのに対し、八戸は56万2千トンと82%を占めている。一方、金額面においても65.3%である。このことから青森県の漁業といってもそのほとんどが八戸市に集中しているし、水産加工業についても、スルメ加工の盛んな大畑町を除くと同様であることがわかる。

Ⅲ 八戸市の水産加工業

① 工場の分布

昭和50年度における水産加工場の現況は第1表のとおりで、さらに工場の分布を業種別に示したのが第1図である。まず工場の立地要因について考察してみると、原料の入手しやすいこと、工業用水・電力・労働力が豊富に得られること、そして交通の便が良いことなど様々あげられるが、八戸市の場合大部分がその条件を満たすものである。最近、塩入下・大久保などのように内陸部にも工場立地がみられるようになったが、これは公害を避けるため住宅地から遠ざかり、水の得やすい川沿いなどに立地したからである。

次に工場の歴史的分布、つまり工場の設立年から考えていくと、現在の繁栄を作りだしたのは協同組合法ができた昭和25年以降であることがわかる。

さらに工場の業種・歴史・規模の分布から、八戸市の水産加工業地区を大旨4地区に区分することができるのでその特色をのべていく。

〔 鮫地区 〕

ここは八戸市の湊町としての昔からの中心地で第1魚市場がある。加工場は、この魚市場の背後にたち並ぶ。他地域と比べ大規模な冷凍・冷蔵工場があり、乾製品・魚粕飼料を主とする零細漁家が少ないのが特徴である。歴史面からみても、昭和31年の青森県水産加工研究所ができたあたりに創業を始めた工場が多く、このことから製氷・冷凍・冷蔵・かんづめ工場などが多いことがうかがえる。

〔 白銀・湊地区 〕

この地区は、地形的にみると海岸段丘が海岸に迫っており、市街地をはさんで海岸よりに加工場の分布が著しい。特に加工場の集中するのは三島下地区であり、小規模な加工所が多い。これは、かつてイカの豊漁期にスルメ加工をしていた零細漁家が現在に至ったとみてよいと思

われる。ここには八戸市における 3 つの魚市場のうち、最も新しい第 3 魚市場が昭和 50 年度に開設されているが、この魚市場と直結するような大きな加工場の進出という現象はみられない。その理由としては、この白銀地区がかつては商港としての機能をもち発展してきた所であり、今尚その機能をもつことに起因するものである。

〔小中野地区〕

この地域は馬淵川と新井田川とにはさまれた八戸低地といわれる所で、沼館・江陽地区とに二分され、たくさんの工場が立ち並ぶ。水産加工場は江陽地区の方に多く立地し、特色としては冷凍・冷蔵工場をも兼ね備えた複数の業種を扱う大工場が多いことである。大工場のまわりには、下請けの小加工場もみられる。歴史的にみると、昭和 28 年の第 2 魚市場の開設がこの地区の加工場進出の契機となっている。

〔市川地区〕

昭和 49 年から 52 年度まで、水産加工場及び製品運送などに必要な工場が集まり現在では 22 企業がこの地区に移転して 1 つの水産加工工業地区を形成している。この加工団地は共同の污水处理場をもち、元来からの目的である水質汚濁・悪臭などという公害追放について一応の成功をみている。前にのべてきた 3 地区と異なるところとしては、計画的に形成された地区であるため、魚市場から 1.0 Km 以上も離れているという点で原料入手に不利な面がみられることである。しかしこの点についても、昭和 51 年・52 年に新井田川・馬淵川にそれぞれ八戸大橋・八太郎大橋が完成して臨海道路ができたため、以前よりも距離的・時間的に短縮され、現在ではそれほどマイナス面とはなっていない。

今まで述べてきた 4 地区を加工場の歴史的面からとらえてみる。まず、現在の水産加工場の先がけとなった零細漁家が立地したのは、海岸に近く原料の入手しやすい、白銀・鮫地区のうちでも今の八戸線以北の所である。白銀地区では今でも昔同様あまり変化がみられず、小加工所の立地が多いが、逆に鮫地区では第 1 魚市場の開設により大冷凍・冷蔵工場が立地し、従来の小加工所は消滅しつつある。白銀・鮫地区に続くのが小中野地区であるが、ここは八戸の工業地帯の中心である。これは工場立地に有利な条件（第 2 魚市場・工業用水など）がそろって現在の工場分布をみている。さらに市川の加工団地は、公害という面から昭和 40 年代後半に立地したものである。

このように工場の分布をみると、初めは原料立地型であったのが、その後のいろいろな条件・制約により現在では徐々に行政面からの工場立地が色濃くなってきていることがうかがえる。

② 工場の規模

工場の規模について考察するため、指標を各企業の従業員数においた。水産加工の場合、従

業員の構成において特徴的なことは、男子より女子従業員が多いということである。特に、臨時雇いについてこのことが明確にあらわれる。臨時雇で女子が多いのは、男子と比べ低賃金で雇えること、そして水を使う立働きの仕事内容からである。第2表はアンケート調査により、常雇の従業員数を基準にア～オまでの5段階にわけ業種ごとに体系づけをし、さらに先ほどのべた4地区がどの位置にあるかをみたものである。

第1表 水産加工場の現況

区 分	企業数	工場数
製 氷 ・ 冷 凍	44	78
す り み	—	19
か ん づ め	6	6
魚 粕	14	18
珍 味	8	14
ね り 製 品	3	6
冷凍フィレ・ブロック	4	7
一 般 加 工 場	56	56
合 計	135	204

昭和50年度

この表から考察されることを述べていく。

従業員数はア～オにいくにつれ増えていく。つまりアに近い方は小規模で、逆にオに近い方は大規模工場であることを示す。小規模工場で行なわれる業種としては、魚油・魚粕・低次加工があげられる。かんづめ・すり身・ねり製品・冷凍冷蔵業は比較的大きな工場で行なわれている。特にかんづめ業は、設備が大きいほど効率が良いのでこの分野では自動化された生産装置をもつ大手メーカーがあたる。冷凍冷蔵業も同様である。珍味という業種はア～オのどの段階にもみられる。これは仕事内容をみると機械

化しにくい、

それほど大き

な施設が必要

ないこと、ま

た製品が高く

つくというこ

とから、どの

段階の工場で

も行なわれて

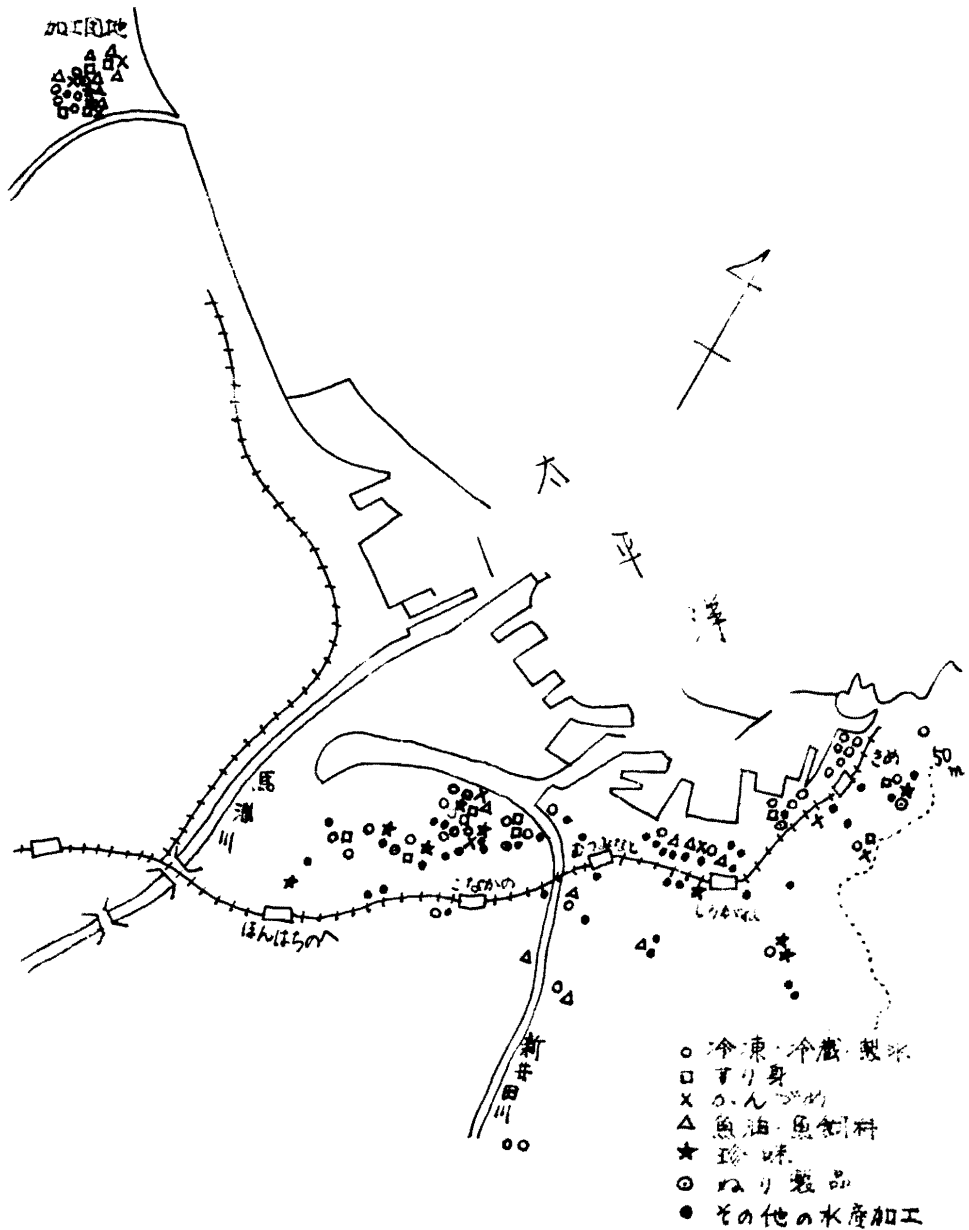
いるのである。

第2表 従業員数による企業数と業種内訳

規 模	業 種				地区区分	
ア。 1～ 9人	魚油・魚粕		珍	低次加工	白鷺地区	市川地区
イ。 10～29						
ウ。 30～49		すり身・ねり製品			小中野地区	
エ。 50～99			かんづめ	味		
オ。 100人以上						

エ以上、つまり従業員50人以上の工場は2, 3の業種を複業するケースが多く、組み合わせとしては、冷凍—すり身—ねり製品という例が多い。このことは、原料がすけとうだらという保存のきかない魚であり、これがすり身という半製品を経て、かまぼこ、ちくわなどのねり製品になるということからわかる。

第1図 業種別水産加工場の分布



V おわりに

以上述べてきたことから、八戸市は青森県のうちでも最も工業と水産業の盛んな所であるということがわかった。したがって、当市において水産加工業が飛躍の発展を遂げたのは当然のことといえよう。

しかし、最近では全国的に200海里問題が大きくなり、水産加工業界はこれから先、原料不

足の時代をむかえ、どのように対応していくかという大切な立場に立たされている。また八戸市の水産加工業界には、小加工場に関すること、公害問題、水産加工団地の問題、さらにはまだまだ問題として取りあげなければならないものがたくさん残っている。

刻々と移りゆく現在，“水産業と工業の町”といわれる八戸市において、今後なお一層水産加工業というものを質的に向上させるのに必要なことは、これらの課題とどう取り組んでいくかという市民の積極的態度と、最も適切な現状把握、さらにはあらゆる面からの綿密な計画であると思われる。

最後に本稿を作成するにあたり、御指導・御助言をいただきました横山・水野両先生に深く感謝いたします。

参考文献・資料

- 楠原 直樹（１９６４）：「遠洋漁業の水揚げ港としての清水」 東北地理 １６－１
- 渡辺 英郎（１９７３）：「水産加工業の地域構造」 函館工業高等専門学校紀要 第７号
- “ ” ：「イカの珍味の町、函館市」 地理 第２１巻第４号
- 野村 節男 ：「八戸港の漁港としての性格」 弘大地理
- 神山 恵介（１９７６）：「八戸港史」（漁業編） 八戸港開港３５周年記念式典協賛会
- 「はちのへの水産」（１９７６）
- 八戸市勢要覧（１９７６）
- 八戸市統計書
- 「青森県漁業の動き」（１９７７）：東北農政局青森統計情報事務所